

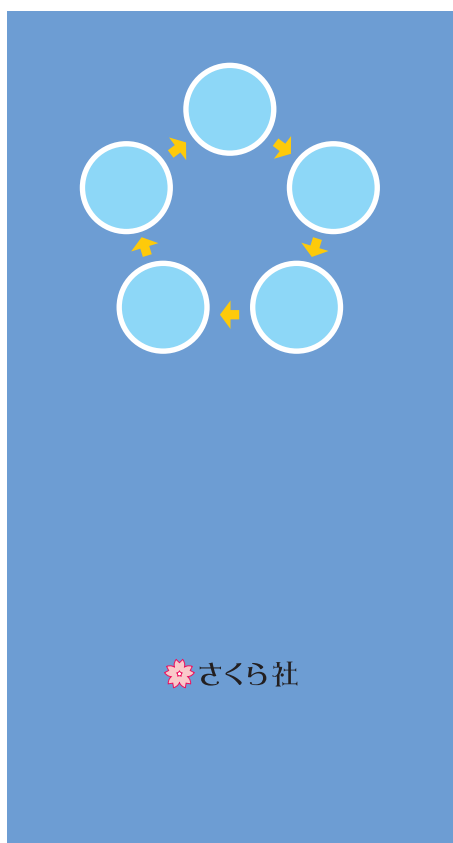
主体性を育む

# 学びの型

自己調整、探究のスキルを高めるプロセス

木村明憲

AKINORI KIMURA



さくら社

## はじめに

今日の学校教育では、子どもたちが主体性を発揮して学ぶことが重要視されて

います。しかし、全ての子どもたちがそのような学びに至ることは難しい現状にあることも事実です。これは、現場で働く先生方に「主体的・対話的に学ぶ授業のイメージをもつことができない」「主体的・対話的に学ぶ授業・単元の設計方法が明らかではない」「主体的・対話的に学ぶ力をどのように育成すればよいのかが明らかではない」といった悩みや課題があるからではないでしょうか。

これらの悩みや課題を解消するためには、子どもたちが主体性を発揮して学ぶための学びの道筋（学習プロセス）を明らかにするとともに、そのプロセスの中で、子どもたちが自ら学習を進めていくことができる力（学習スキル）を発揮できるような授業を行っていく必要があります。

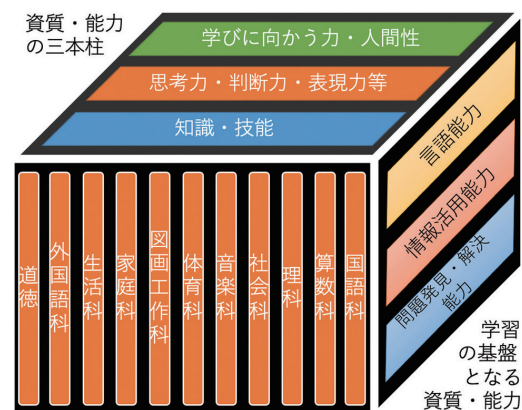
日本では、1996年の中央教育審議会答申で「生きる力」の育成が示されて以来、子どもたちが自ら考え、自ら行動し、主体的に学びを進めることを目指し、教育改革が行われてきました。そして、2017年に告示された学習指導要領では、子どもたちの資質・能力を育成し、これらの力を高めるために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が示されました。

このような学びを実現するために、学習指導要領では、資質・能力を3つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」に整理するとともに、

学習の基盤となる資質・能力として「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」を示しています（図1）。

これらの変革は日本の教育課題を解決することをねらいとして示された変革であるとともに、世界的な教育の動向も影響していると考えられます。今日、諸外国では、子どもたちのコンピテンシーやスキルを高め、子どもたちが主体性を発揮して学習を進めていけるようになることが重要視されています。

これは、OECD（経済協力開発機構）のDeSeCoプロジェクトで提唱された「道具（言語、知識、情報、ICTなど）を相互作用的に用いる」「異質な人々からなる集団で相互に関わりあう（協働、対話）」「自律的に行動する（主体性、自己調整）」といった「キー・コンピテンシー」が重要視されたことによって生じた改革・変化であると考えられます。そして、OECDでは「OECD Education 2030」として、子どもたちが今後、世界を切り拓いていくために、「どのような知識やスキル、態度及び価値が必要



©Kimura Akinori

図1 主体的・対話的で深い学びの実現と資質・能力

か]、また、学校や授業の仕組みを「どのよう  
にして変革していけば良いのか」につい  
 て検討が進められています。(図2)

このような流れを踏まえ、本書では、子  
 どもたちが「キー・コンピテンシー」すな  
 わち「資質・能力」を発揮しながら学ぶた  
 めに、学習プロセスの把握と学習スキルの  
 育成に着目した「主体性を育む学びの型」  
 を提案します。

私は、これまで小学校教員として働く中  
 で「型」という言葉を「画一的である」「教  
 師主導である」といったマイナスのイメ  
 ージでとらえることが多かったように思いま  
 す。しかし、日本の文化には、型があり、  
 それを重んじることで先人からの知恵を継  
 承しています。

例えば、茶道には、お茶を入れたり、お  
 茶を出したりする一つ一つの動きや順序に  
 決まりがあります。茶道を学ぶことで、こ  
 れらの動きや順序を型として覚え、何度  
 も繰り返す中から、それぞれの動きや順序に

隠された「人をもてなす・人を敬う」とい  
 う意味に気付くことができるのです。また、  
 空手などの武道においても、何度も何度も  
 繰り返し型を練習することで、体が自然と  
 動くようになり、無駄のない、力強く美し  
 い動きができるようになるのです。そして、  
 茶道と同じように、型の動きや順序の意味  
 に気づき、自らの型を形成していくことに  
 繋がるのです。

これら「型」に対する考え方は、子ども  
 たちが学校や家庭で学習する際にも通じる  
 ことではないでしょうか。つまり、学習に  
 おいても型があり、その型を何度も繰り返  
 しながら学ぶことにより、学習の進め方や  
 課題解決の仕方、見通しのもち方を身につ  
 けることができるようになると思うのです。

しかし、ただ型を守るだけでは、主体性  
 を発揮した学びには到達しません。日本古  
 来の言葉である「守破離」が示すように、  
 型を守りながら学び方を習得し、習得した  
 型を活用して学びを深め、自らの学習の型  
 を形成してこそ、子どもたちが主体となっ

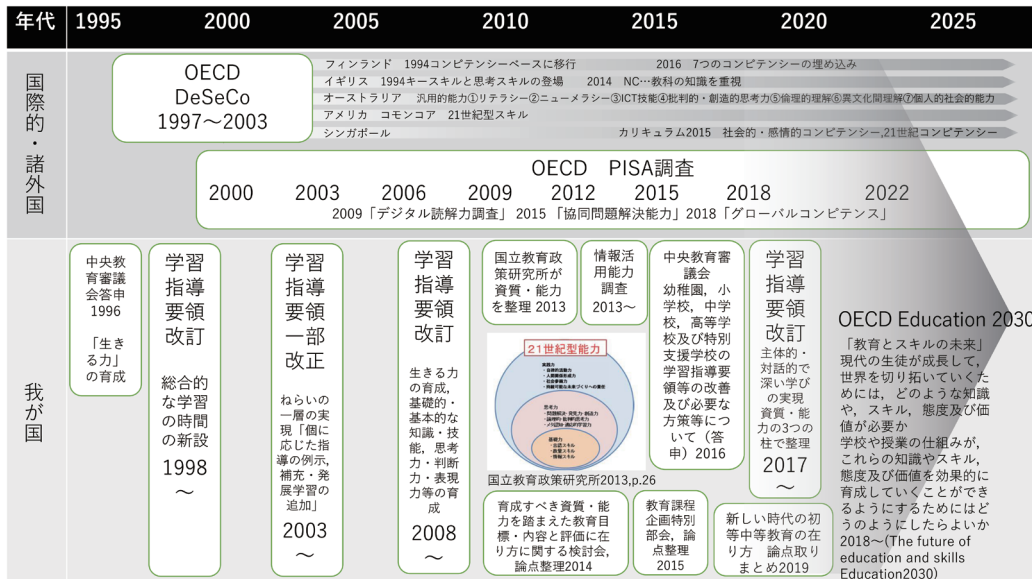


図2 国際的な教育の動向と我が国の教育改革

Akinori Kimura©2021

て学ぶ姿に行き着くのです。そして、このように習得した型は、学校における学習だけでなく、子どもたちが社会に出た後も、生きて働く力となり、社会生活の中で発揮され、より良く生きる力につながっていくのです。

本書では、子どもたちが主体性を発揮して学ぶための学びの型を提案します。ここで提案する「主体性を育む学びの型」は、子どもたちの学びの型であるとともに、教

師の単元・授業づくりの型でもあります。この型を軸に、図3のような指導者と学習者の関係を構築することが、子どもたちが主体性を発揮する学びの実現につながります（第4章で詳しく解説します）。

子どもたちが学習を進める学びの型を習得し、自らの型を形成することを望むとともに、先生方が単元・授業づくりの型を習得・活用し、自らの型を築き上げられることを切に願っています。

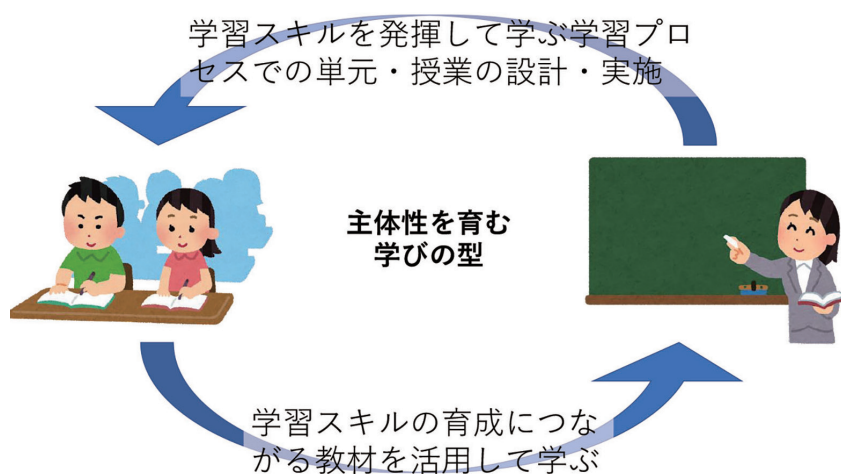


図3 「主体性を育む学びの型」における学習者と指導者の関係

文部科学省初等中等教育局教育課程企画室（2018）  
OECD Education2030 プロジェクトについて，（2021,9,26  
[https://www.oecd.org/education/2030-project/about/documents/OECD-Education-2030-Position-Paper\\_Japanese.pdf](https://www.oecd.org/education/2030-project/about/documents/OECD-Education-2030-Position-Paper_Japanese.pdf) 2022.3.24 確認），

2022年 4月

木村明憲

はじめに ..... 2

**序章** 主体性を発揮する学習者を育てる「**学びの型**」 ..... 6

**第1章** 主体性を発揮する学習者になるための **学習プロセス**

**1** 学習プロセスの把握 ..... 10

**2** 3つのプロセス ..... 11

    A 自己調整プロセス ..... 11

    B 探究プロセス ..... 13

    C 単元縦断型プロセス ..... 15

**3** 主体性の発揮と学習プロセスの把握 ..... 22

**第2章** 主体性を発揮する学習者の基礎となる **学習スキル**

**1** 学習スキルの習得 ..... 24

**2** 3つの学習スキル ..... 28

    a 自己調整スキル ..... 28

    b 情報活用スキル ..... 36

    c 思考スキル ..... 48

**3** 主体的な学びと学習スキルの習得 ..... 59

**第3章** 主体性を発揮する 学びに至る **学習プロセス・学習スキルと学習活動**

**1** 見通す ..... 62

**2** 実行する ..... 64

**3** 振り返る ..... 71

**第4章** **AK-Learning**

**1** AK-Learning モデルのコンセプト ..... 74

**2** AK-Learning モデルの導入 ..... 75

**3** AK-Learning Teacher カード ..... 77

**4** 本書の充実と発展 ..... 78

**コラム** 学びの型（番外編）◆シンキングツール習得の型 ..... 60

[付録] 携帯していつでも使える〈学びの型〉支援カード

# 序章

## 主体性を発揮する学習者を育てる「学びの型」

表1は本書で紹介する「主体性を育む学びの型」の全体像です。

「学びの型」には大きく二つの側面があります。一つは子どもたちが見通しをもったり、自ら学習を振り返ったりしながら学習を進めていく「自己調整」の側面です。

自己調整の側面では、主に子どもたちの「主体的な学び」を促すことにつながるプロセス・スキルを示しています。小学校学習指導要領（2017）では、「主体的な学び」が「学ぶことに興味・関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」学びであると示されています。また、中央教育審議会の「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」では、資質・能力の一つである「学びに向かう力・人間性等」を「[主体的に学習に取り組む態度](#)」として評価するものとし、それらの態度を評価する際に、「学習に関する自己調整に関わるスキルが重視される必要がある」とした上で「自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているか」という意図的な側面を評価することが重要である」と示されています。

これらのことから、主体的な学びが、「**子どもたちが学習の見通しをもつこと**」「**学習状況を自ら把握し、進め方を試行錯誤すること**」「**学習を振り返り、次につなげること**」

表1 『主体性を育む学びの型』の全体像

自己調整	自己調整プロセス	見通す		
	自己調整スキル	目標設定	計画立案	
探究	探究プロセス	課題の設定		
	単元縦断型プロセス	問いを見出す	解決策を考える	
	情報活用スキル	課題設定	計画	
	思考スキル	広げてみる 分類する 順序立てる 焦点化する	順序立てる 見通す	

といった自己調整的な学習が重要であることがわかります。そのような理由から「主体性を育む学びの型」の一つ目の側面に自己調整学習の理論を基にした、自己調整の側面を設定することにしました。

次に、もう一つの側面として、子どもたちが課題・問題を、自らの力で解決・達成していく「探究」の側面を設定しました。

探究の側面では、主に子どもたちの「対話的な学び」を促すことにつながるプロセス・スキルを示しています。学習指導要領では、「対話的な学び」を「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める」学びであると示されて



		実行する				振り返る			
		1時間ごとに以下の3つの段階で、自己調整スキルを発揮する。				自己評価	帰属	適用	
<見通す> <実行する> <振り返る>	目標設定・ 計画立案 確認・調節 自己評価・ 帰属・適用	<見通す> <実行する> <振り返る>	目標設定・ 計画立案 確認・調節 自己評価・ 帰属・適用	<見通す> <実行する> <振り返る>	目標設定・ 計画立案 確認・調節 自己評価・ 帰属・適用				
		情報の収集		整理・分析		まとめ・表現		振り返り	
	収集する	関連付ける	吟味する	考えをつくる	価値を 創造する	発信する	振り返る		
	収集	整理	分析	表現	創造	発信	評価	改善	
	関係付ける	関連付ける 比較する	多面的にみる 分類する	理由付ける 抽象化する 構造化する	要約する 価値付ける 具体化する	順序立てる 理由付ける	評価する 変化を とらえる	理由付ける	応用する

います。このように子どもたちが他者と会話したり、書籍や資料を読んだりして他者や自分と対話するためには、**探究的な学習の流れの中で課題を持ち、情報を収集し、整理・分析することを通して生じた考えをまとめ・表現することが必要である**と考えられます。このことから、「主体性を育む学びの型」のもう一つの側面として、「探究」の側面を設定することにしました。

ここで提案する「主体性を育む学びの型」とは、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした型でもあるということです。つまり、提案する型の「主体性」とは、主体的な学び、対話的な学び、深い学びが実現することによって生まれる学習者（子ども

たち）の学びの姿なのです（図1）。

このような学びの姿に至るために、「主体性を育む学びの型」を自己調整と探究に分けた3つの学習プロセスと、それらに対応する3つの学習スキルとして示しています。これらはいずれも教師が授業・単元づくりをする際や指導・支援をする際に、また学習者（子どもたち）が学習の道筋を明らかにし（見通し）、自ら学習を進める際に有効です。

「自己調整」の側面に示された自己調整プロセスと自己調整スキルの関係は、「見通す」プロセスで「目標設定」「計画立案」のスキルを育成・発揮するという関係にあります。

「探究」の側面に示された探究プロセス、

単元縦断型プロセスと、情報活用スキル、思考スキルの関係は、探究プロセスの「課題の設定」プロセスが、単元縦断型プロセスの「問いを見出す」「解決策を考える」プロセスに対応し、それは同時に情報活用スキルの「課題設定」「計画」スキルと、思考スキルの「広げてみる」「分類する」「順序

立てる」「焦点化する」「順序立てる」「見通す」スキルを育成・発揮するという関係にあります。

このような関係を軸に、本書では、学習プロセスと学習スキル、そしてそれらに基づいた学習活動について、順に解説をしていきます。

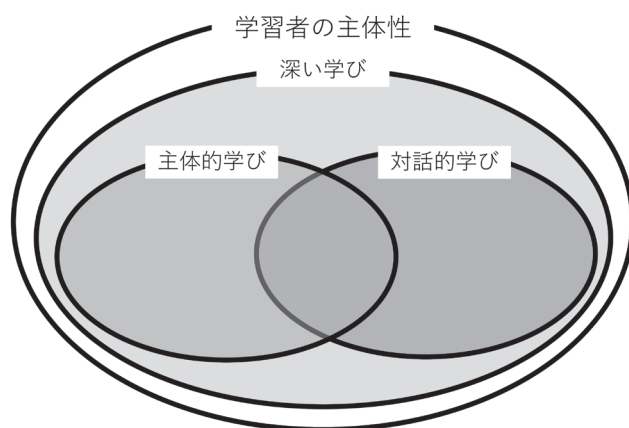
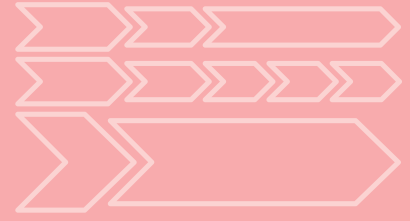
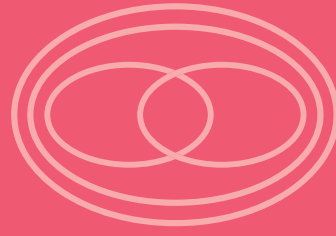
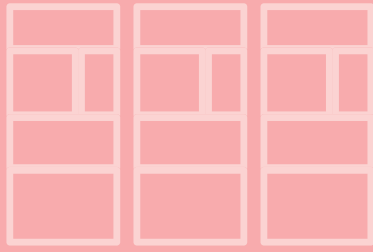


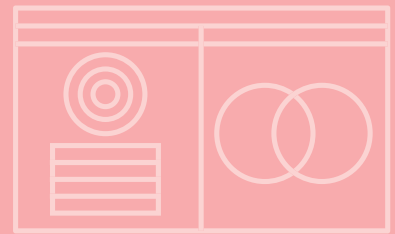
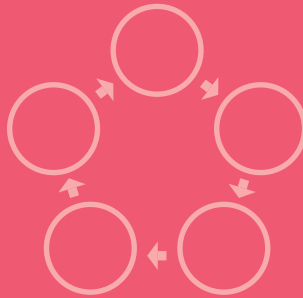
図1 学習者の主体性と「主体的・対話的で深い学び」の関係





## 第1章

# 主体性を発揮する学習者になるための 学習プロセス



# I 学習プロセス の把握

子どもたちが主体性を発揮して学びを進めるためには、教師が「主体性を育

む学びの型（表1）」に示したプロセスを基に単元・授業を設計したり、子どもたちがこれらの学習プロセスを把握して自らの力で学びを進めようとしたことが大切です。全ての授業がこの型の順序で進むわけではありませんが、この型を「学びの基本」として把握することにより、型を柔軟に組み替え、主体性を発揮して学ぶことができるようになります。

子どもたちが主体性を発揮して学ぶ授業を実現するためには、教師と子どもたち（学習者）の双方が**学習プロセスの「型」を把握することがポイント**となるのです。

## 【教師における学習プロセスの型】

教師における学習プロセスの型とは、まず、教師がプロセスを理解し、そのプロセスで1つの教科を指導することができるようになることです。次に、これらのプロセスを様々な教科・領域に発展させ、それぞれの教科・領域に合った形に変えることができるようになることです。最後に、身に

つけたプロセスを自分が最も指導しやすい形に変え、様々な教科・領域の授業はもちろん、学校生活の様々な場面の指導に波及させていけるようになることがプロセスの型の習得につながるのです。

## 【子どもたちにおける学習プロセスの型】

子どもたちにおける学習プロセスの型は、まず、子どもたちが探究プロセスを基にした「課題をもつ」「情報を「集める」「整理する」「まとめる」「伝える」と自己調整プロセスである「見通す」「実行する」「振り返る」を把握し、1つの教科もしくは、家庭での自主学習で自ら学習を進めることができるようになることです。

その際の導入方法として、探究プロセスを単元の流れ、自己調整プロセスを1時間の授業の流れとして、2つを区別して伝えることで混乱を防ぎます。そして、子どもたちの理解が深まってきた際に、自己調整プロセスが単元の流れにおいても重要であることを伝えます。また、単元縦断型プロセスは、子どもたちにとって理解することが難しいプロセスであるため、探究プロセスを十分に習得した後に、探究プロセスの発展版として子どもたちに示すことが効果的であると考えます。

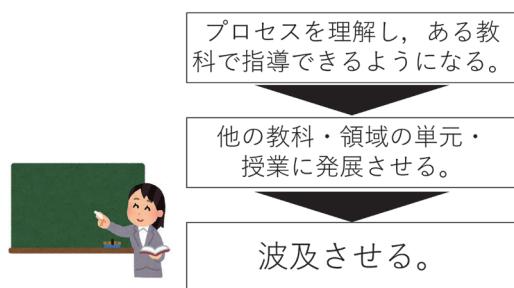


図 1-1 プロセスの型の習得過程（教師）

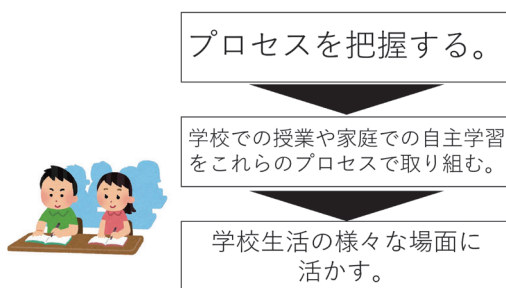


図 1-2 プロセスの型の習得過程（子ども）

次に、子どもたちが理解したプロセスを他の教科・領域で応用し、自ら学びを進めることができるようになることです。最後に、身につけたプロセスを自分が最も学びやすい「型」につくり変え、様々な学習や学校生活・日常生活に活かしていけるようになることがプロセスの型の習得につながるのです。

本書では、子どもたちが主体性を発揮し

て学びを進めるために「自己調整プロセス」「探究プロセス」「単元縦断型プロセス」の3つのプロセスを型として提案します。学習プロセスの型を基に、それぞれのプロセスには、「どのような段階があるのか」「それぞれの段階では、どのような活動をどのような目的で行うのか」などの問いをもちながら本書を読み進めていただけたら幸いです。

## 2 3つの プロセス

表 2-1 は「自己調整」「探究」「単元縦断型」の各プロセスの関係を示した表

です。主体性を育む学びの型では、これらプロセスの関係を表 2-1 のように捉えます。

自己調整プロセスは、主体的な学びの実現に向けた「学習の見通しをもつ」「自らの学習状況を把握しながら学習を実行する」「学習を振り返り次の学習に活かす」の3つのプロセスで構成されます。

探究プロセスは、対話的な学びの実現に

向け、子どもたちが課題を基に探究的に学びを進めることに重点が置かれるため、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り」の5つのプロセスで構成されます。

そして、単元縦断型プロセスは、深い学びの実現に向け、学習指導要領（2017）に示された深い学びの視点を基に、探究プロセスを詳細化した9つのプロセスで構成されます。

ここでは、これらの一つひとつのプロセスの詳細について解説していきます。

表 2-1 学習プロセスの型

自己調整 プロセス	見通す		実行する				振り返る		
探究 プロセス	課題の設定		情報の収集		整理・分析	まとめ・表現	振り返り		
単元縦断型 プロセス	問いを見出す	解決策を 考える	収集する	関連付ける	吟味する	考えを つくる	価値を 創造する	発信する	振り返る

### A 自己調整プロセス

子どもたちが主体性を発揮して学ぶためには、自らが学習を調整しながら学ぶことができるようになることが大切です。調整するとは、「学習の目標を設定し、計画を立

てる」「目標の達成を目指し、学習を確認し、調節すること」「学習を評価し、評価結果の理由を考え、次に活かす」ことです。学習者が自らの学習を調整するには、自己調整